

富士市中小企業景況調査結果

令和4年度 第2四半期【令和4年7月～9月】

令和4年10月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、201事業所(回収率70.1%)を対象に、「令和4年7月～9月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和4年4月～6月 今期…令和4年7月～9月 来期…令和4年10月～12月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲21.4	→	▲18.9 (▲35.8)	→	▲14.5
売上	▲12.1	↗	▲4.0 (▲26.3)	↗	9.6
採算	▲30.0	→	▲31.7 (▲40.4)	→	▲28.2

今期調査では、全産業合計の業況DIが+2.5ポイント、売上DI+8.1ポイント、採算DIが-1.7ポイントの悪化となった。来期の予測について業況・採算DIは横ばい、売上DIは改善の見込みとなった。業種別の来期業況DIは、製造業・サービス業は上昇を、建設業・卸売業・小売業は下降を予想。売上高DIは製造業・建設業・サービス業は上昇を、卸売業・小売業は下降を予想。採算DIは製造業・サービス業は上昇を、建設業・卸売業は横ばいを、小売業は下降を予想。

全体を通して、資材等の価格高騰に対するコメントが目立った。また、販売価格への転嫁が難しいとの声も多かった。また、コロナ禍、物価高騰という中でもインボイス制度やDX等の新しい取り組みに対応していかなければならないという声もあった。

経営上の問題点では、製造業・卸売業・小売業で「商品、原材料仕入れ価格の上昇」が、建設業では「人材不足」、サービス業では「売上減に伴う利益減」がそれぞれ1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業、建設業、卸売業は上昇。小売業、サービス業は下降。

来期予測は、製造業、サービス業は上昇を予想。建設業、卸売業、小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲39.4	↗	▲27.6 (▲34.3)	↗	▲6.9
建設業	▲31.0	↗	▲7.2 (▲24.2)	↘	▲14.8
卸売業	▲11.5	↗	▲4.4 (▲18.2)	↘	▲18.2
小売業	▲13.0	↘	▲23.8 (▲52.4)	↘	▲30.0
サービス業	▲6.9	↘	▲30.8 (▲51.9)	↗	▲7.7
全産業	▲21.4	→	▲18.9 (▲35.8)	→	▲14.5

〔売上高のDI〕 製造業、建設業、卸売業は上昇。小売業は横ばい。サービス業は下降。

来期予測は、製造業、建設業、サービス業は上昇を予想。卸売業、小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲26.5	↗	▲6.9 (▲40.0)	↗	24.1
建設業	▲21.4	↗	▲10.7 (▲17.3)	↗	7.1
卸売業	▲14.8	↗	19.1 (0.0)	↘	13.6
小売業	▲4.3	→	▲4.8 (▲45.0)	↘	▲10.0
サービス業	10.4	↘	▲12.0 (▲25.9)	↗	8.0
全産業	▲12.1	↗	▲4.0 (▲26.3)	↗	9.6

〔採算のDI〕 製造業、卸売業は上昇。建設業は横ばい。小売業、サービス業は下降。

来期予測は、製造業、サービス業は上昇を予想。建設業、卸売業は横ばいを予想。小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲58.8	↗	▲46.4 (▲42.8)	↗	▲28.6
建設業	▲39.3	→	▲35.7 (▲37.9)	→	▲37.0
卸売業	▲15.4	↗	▲8.7 (▲22.7)	→	▲13.0
小売業	▲13.1	↘	▲23.8 (▲52.4)	↘	▲30.0
サービス業	▲13.8	↘	▲38.5 (▲42.9)	↗	▲30.8
全産業	▲30.0	→	▲31.7 (▲40.0)	→	▲28.2

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…総じて材料価格の高騰と価格交渉の難化を不安視する声が多かった。「昨年同月比で電気料金は42%、ガス料金は74%増加した。その他の経費も毎月上昇している。再生紙トイレットペーパー業界は値上げを試みているが、取引先からの承諾をまだ得られない状況である。製造すれば赤字になる状況にあり、生産調整を行っている」「原材料価格、電力費、燃料費、水道光熱費、消耗品費等、全ての価格が高騰している。加工費の値上げ交渉が難航し、利益率は悪化の一途をたどっている」「県民割などの施策により各所で人流があり業務用家庭紙については発注が増え始めている。リモートワークから通常のオフィスワークに戻りつつあり、印刷用紙の消費は多少上向いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「9月、10月に値上げの承諾がいただければ、再生紙業界も安心出来ると思われる」「原材料、燃料費の高騰がどこまで続くのか見通せない中、値上げ交渉は今後も難航するであろう」「コロナが落ち着けば、売上は回復する予測をしている」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…総じて原材料価格の高騰を不安視する声が多かった。「自動車部品は、半導体不足等による自動車メーカーのライン停止により売上が減少している。工作機械等の部品について大きな変化はないが、納期が短期化している」「半導体不足が徐々に解消されつつあるが、完全な生産体制の復活にはまだ時間がかかる」「材料価格の上昇が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「電気、ガス、石油の高騰やその他購入品の全てが値上がりしている。値上げ分を加工単価に転嫁できない為、厳しい状況が続く。価格交渉に応じてもらえないのが現状である」「円安の影響で企業の国内回帰の動きが起きている」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「原材料価格の高騰が続いている」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』…総じて資材高騰と納期遅れを不安視する声が多かった。「新しいビジネスとして脱炭素系のビジネスが立ち上がり、今後の成長が期待される」「製造部品の高騰、電機部品は1年待ちも当たり前の状況で、機械修理にも影響している」「輸出は好調である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「来年度も輸出好調の見通し」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…総じて諸経費高騰を不安視する声が多かった。「新車立ち上がりで量産が忙しくなっているが、諸経費が高騰しており、何の為に働いているか分からなくなってくる」「自動車メーカーHのエンジン不正問題の影響が、トラックの国内販売台数に大きく表れてきた。自動車メーカーHのトラックは、ほぼ全車種が国内出荷を停止している」「円安の影響は、今のところほぼ受けていない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「事業分野を再構築して、変化に対応していく事を検討しなければならない」「自動車メーカーHはインドネシアをはじめアジア国での受注は好調であり、海外向け生産に軸を置くものと思われる。トラック荷台の架装メーカーが自動車メーカーHの問題に対しどう対応していくかは不透明」「円安の影響は、予測できない」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…「今年の5月に過去に例の無い程の原材料の値上げが生じたが、10月以降に更なる値上げになる見通し。円安の影響も大きい、バングラデシュでの大洪水の影響が懸念される」とのコメントが寄せられた。

『印刷資材・印刷関連』…総じて材料価格の高騰と価格交渉の難化を不安視する声が多かった。「印刷用紙が今年に入って二度も値上げとなっている。既に売価を変更したものもあるため、取引先に対して再度の値上げが難しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通

しについては「他の原材料等が、また値上げをするのか状況を見ている」とのコメントが寄せられた。

『**食料品**』…「原材料全てにおいて価格が上昇している」「円安で輸入に対する不安がある」とのコメントが寄せられた。

『**飲料**』…「茶農家が減少し、茶畑が荒れ景観に影響がでる恐れがある」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「須津川のバンジージャンプで8月に夜のライトアップイベントが行われていた。バンジージャンプの箇所にもお店を出店できるように規制緩和をして、須津地区を盛り上げるようにしてほしい」「人員不足が続いている。コロナによるスタッフの休みも増え厳しい状況である」「製紙業界は全体的に人材不足が続いている」「中止になった催事も少しずつではあるが再開している」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	13.8	44.8	41.4	▲27.6	上 昇
売上高	27.6	37.9	34.5	▲6.9	上 昇
採 算	14.3	25.0	60.7	▲46.4	上 昇

【建設業】 景気ムード…【厳しい状況】

『**総合建設**』…総じて資材高騰と過当競争を懸念する声が多かった。「コロナ及びウクライナの影響で原材料価格の高騰が続く、鋼材、セメント、アスファルト等の価格が上昇している。建設業の請負には厳しい状況が続いていくため、注意をして世情を見極めていくことが求められる」「公共工事の発注数は、土木工事中心に安定傾向が続く。民間工事は、資機材・燃料も高騰分を価格に転嫁しにくく、採算が取りにくい傾向が続く」「需要の減少が続くが、コロナが原因かは定かでない」「官民ともに投資は減少」「過当競争による利益率低下を、案件数増加で埋め合わせをしている状況が続いている。公共工事の先延ばし案件も影響あり」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物価の高騰により各社で事業計画の見直しが行われている。建設業は、その煽りを受け、受注の減少に陥っており、今後も同じ状況が続くと思われる」「円安傾向の改善の兆しはない。資材・燃料の高騰による中小建設業の経営圧迫が深刻である」「原材料の高騰は今後も続くだろう」「先の見通しがたたない。閉塞感からの脱却の為には大胆な経済政策が必要ではないだろうか」とのコメントが寄せられた。

『**一般住宅**』…総じて資材高騰を不安視する声が多かった。「資材等全てが値上がりしており、採算は悪化している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原材料の価格変動が多すぎて、今後どうなっていくのか心配」「少子高齢化により、住宅市場は先細りを感じる」とのコメントが寄せられた。

『**建設関連**』…「材料の値上がりが続く為、あまり景況はよくない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原材料、仕入品の価格上昇は続き、景気の回復は見込めない」とのコメントが寄せられた。

『**土木関連**』…「建設土木は、資材等の価格が高騰している為、契約まで結びつけない」「解体工事、廃棄リサイクルは、今のところ順調で仕事の受注は安定している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「光熱費・資材の値上げが利益を圧迫している。この状況は今後も続くであろう」とのコメントが寄せられた。

『造園土木』…「人員不足が続いている」「雨と日中の暑さの影響で草が大きくなり草刈りの依頼が多くなった」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』…「従業員の高齢化が進み、今後の見通しは厳しい」「景気動向による設備投資がどの程度あるかで業績が変わる」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「引き続きDXの対応見直しが急務であると考えている」「コロナで濃厚接触者が増え、職場（特にエッセンシャルワーカー）を回すのが大変である」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	10.7	71.4	17.9	▲7.2	下降
売上高	21.4	46.4	32.1	▲10.7	上昇
採算	10.7	42.9	46.4	▲35.7	横ばい

【卸売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『機械器具』…総じて仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「メンテナンス、サービス業は、仕入価格の上昇、長納期化で苦戦傾向である。販売価格を上げることが難しく利益率は低下している。業界の好不調が明確で二極化が進んでいるが、好調企業は積極的に設備投資する計画もあるようだ」「ガソリン価格の値上げが負担増となっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「産業機械の値上りが続いているが、外国製品の価格上昇は更に進むだろう」「円安の加速度が早すぎる。何らかの対策は必要と感じるが、政府にあまり期待できない」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…総じて自動車業界の回復には時間を要するだろうという声が多かった。「今年度は車検台数の裏年と言われているが、昨今の自動車販売台数の減少により更に減少傾向にあるようだ。販売台数の減少の主たる要因は半導体不足であり、中古車市場に影響している。また、ガソリン価格の高騰により遠方への外出が減少した事で自動車部品の市場にも影響を及ぼし、部品の需要も昨年より減っている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「半導体の生産が徐々に回復しつつあるが、まだ通常の新車販売に戻るのはまだ大分先になるだろう。また、ガソリンの高値もすぐには戻らないだろう」とのコメントが寄せられた。

『建築材料』…総じて資材高騰や事業の改善に関する声が多かった。「全体的に仕事が少なく、見積りしても実際に工事が始まるのが来年の話など売上につながる案件が少ない。また、仕入れ価格の値上りが収束せず、先の仕事の契約をしてしまうのはリスクが高い」「メーカー、商社、卸売り業者から毎日価格改訂の通知が届き、在庫商品、仕入商品の価格変更に多くの時間が割かれている。一方で、デジタル化やSDGsの取組を掲げる企業が増加しており、弊社も時代に追随していかなければと考えさせられている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「本業が厳しい中、インボイス制度、電子帳簿保存法など新制度への対応が迫られ頭が痛い」「今後も価格上昇は続くと思われる。今は顧客も値上げを受け入れてくれているが、どこまで値上げが続くのか等、不安は大きい」「円安により物価が上昇している。首都圏はマンション供給が少なく、価格は高値で推移。分譲戸建も好調で推移している。注文住宅とは逆になっている」とのコメントが寄せられた。

『**金属部品**』…総じて仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「原材料がどこまで上昇するかわからないのに値上げができない。2年間で設備投資を止めていた分、短期的に需要は高くなる見通し」とのコメントが寄せられた。

『**紙**』…総じて仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「製紙各社で値上げを発表しているが、本年二度目となるので、得意先への販売価格調整がかなり厳しい」とのコメントが寄せられた。

『**製紙原料**』…総じて製紙原料の減少を不安視する声が多かった。「事業部ごとの販売価格の変更時期のずれ込みが生じている。商品による値上げ転嫁が遅れているため、納品価格にばらつきがみられる。紙の商品内容による需要の増減が顕著である」「ペーパーレスで古紙の減少は続いている。産業古紙もまったく同様で減少は著しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「あらゆる情報の分析で、業界や自社の立ち位置を見き分けるスピードが重要である」とのコメントが寄せられた。

『**再生資源**』…「鉄・非鉄スクラップが中国の都市封鎖による需要減等で下降気味だったが、ここにきて反転しアジア市場での活況と円安による輸出の後押しにより国内相場が上昇してきた」とのコメントが寄せられた。

『**工業薬品**』…「仕入価格、燃料光熱費等の上昇により厳しい状況である。ウクライナ問題が解決しない限り、厳しい状況が続くだろう」「弊社は輸入が多いため、円安がどの程度まで進むかによって利益率が大いに変わる」とのコメントが寄せられた。

『**食品**』…「売上はコロナ前の8割程度で推移している。飲食業界は、外食、外出を控える生活スタイルに合った食生活の提案が求められている。特に、デリバリー、家庭での内食増加に呼応した営業戦略、商品戦略が求められている」とのコメントが寄せられた。

『**事業協同組合**』…「しらす不漁が続き仕入値が高騰しているが、販売価格の値上げができず利幅の低い状況が続いている。しらす不漁の影響でまったく予測がつかない状況が続いている」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「人流が復活してきている。インフラ整備の展開を早めることでビジネスチャンスが訪れる可能性が大である」「地域行事と防災の安全性を融合できれば、人々の関心度が増し習慣化されることも考えられる」「製紙原料だけでは先はないと思い、少しずつ紙に関係した仕事を進めている」「特に観光地でもないため、インバウンド減少の影響は少ない」「大型チェーンの自動車部品卸売業者が他地区より進出しており、影響が出始めている」「材料価格の値上げを販売価格に転嫁できない」「各種イベントが再開されてきたので、人の動きが活発になっている」「富士駅北口再開発の業者が決まったが、富士市の企業が1社も入っていなかった。この工事で富士市の建設会社、下請業者、関連会社へ仕事はまわるのだろうか」「市内の小中学校の統合や学校施設の改修工事など公共工事の動きはあるが、なかなか売上に結びつかない状況である」「サービス業の閉店が目につく」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	21.7	52.2	26.1	▲4.4	下降
売上高	38.1	42.9	19.0	19.1	下降
採算	17.4	56.5	26.1	▲8.7	横ばい

【小 売 業】 景気ムード…【低 調】

『各種食料品』…総じて原材料高騰を商品に転嫁できないことを不安視する声が多かった。「新米が古米に比べ値上がりしたので価格転嫁が難しい状況にある」「包材費などいろいろと値上がりしていく中、商品の値上げができない。販売先を増やして、営業活動を強化するしかない状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「新商品の開発においても、原材料の高騰が重くのしかかり不安である」とのコメントが寄せられた。

『食料・飲料』…「ドリンク用茶葉の流通は顕著であるが競争が激しい。生産者も利益が少なく苦しんでいる。販売用茶葉は年々減少を続けている。まだまだ生産過多であり特に高級茶葉は販売機会が失われつつある」「国の政策によって国内の農林水産物の輸出が大きく伸びる傾向にある。茶も適合農産物であるがハードルが非常に高く感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「海外消費が伸びる事で、日本茶の良さが見直され、再び国内消費が復活することを期待する」「日本茶の品種がクローズアップされてきている」とのコメントが寄せられた。

『医薬品』…「処方箋発行枚数は減少に転じている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「ジェネリックの供給不足が続いている」「長期的には人口減による医薬品の需要減が続く」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「今夏も猛暑酷暑によりエアコンの需要がみられた。冷蔵庫等も故障があり買い替えが増えた」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「秋商品は商談会を開催しそれにより商品が動くことを期待したい」「新型コロナウイルス感染症が、まだ影響を及ぼしている」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「天候不順による国内生産の不調と円高による輸入商品の値上げ、さらに品不足が長く続き、経営を強く圧迫している。需要は不変に思えるが、生産者・生産量が減り価格や販売にも影響が見られる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「仕入、資材などの原料価格が高騰し利益を圧迫している現状が長引くであろう」「人々の動きがまだ抑えられていて、活気が無い。イベントには足を向けるようになったか、街には向かない様子である。他の業種も同じような悩みを抱える企業が多い」とのコメントも寄せられた。

『日用品・雑貨』…物価高騰を不安視する声が聞かれた。「納品先に対し突然の値上げを要求できず、負担が生じている」「仕入先から毎日値上げの連絡がくる。実店舗は厳しいが通販は毎月好調に推移している」「長引くコロナ禍で外出意欲の低下に伴い、メイクアップ商品の需要が減少している」「あらゆる物価の上昇により遊興費や外食への支出抑制の意識が高まっている」「二度、三度の仕入れ値の値上げを、販売価格に上乗せできるか不安」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「相次ぐ値上げで玩具は富裕層にしか購入できないものになりつつある事に不安を感じている」「ロシアによるウクライナ侵攻に端を発した世界情勢、アメリカとの金利格差などで円安が長引くことによる経済的ダメージが景気の回復を遅らせると考えられる」とのコメントが寄せられた。

『自動車・部品』…「半導体不足は少しずつ改善しているが2023年後半まで続くという見方もある。また、鋼材やアルミ材などの値上がりにより車両価格への上乗せの動きも出ている」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「相変わらず品不足で、価格だけが上がっている。業界としては良くなる予測が全く出来ない。後は個々の販売店の頑張り次第だろう。富士市サイクルステーションの自転車関連の企画やイベントに期待していきたい」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「コロナの感染者数に左右されるので安定せず、先が読みづらい」「10月よりすべての商品が値上がりする。仕入れ価が20~30%上がってくるところもあり、価格に上乗せできないこともあり苦慮している」「冠婚葬祭の機会が減り、需要が先細りである。ウィズコロナ、アフターコロナを踏まえて同業者様も色々と知恵を絞っている」「脱

毛関係のお店が増加している。撮影前のケアや、男性の美意識も上がってきている」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	9.5	57.1	33.3	▲23.8	下降
売上高	23.8	47.6	28.6	▲4.8	下降
採算	14.3	47.6	38.1	▲23.8	下降

【サービス業】 景気ムード…【低調】

『クリーニング』…「清掃から衛生へと需要が変わりつつある。商品の値上げがあり売上に多少影響があった。業界としてもSDGsへの取り組みが決定した」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』…「燃料価格が上がり経営に影響をもたらしている」「コロナ禍であっても動きが活発である」「製紙業の動きが感じられるので、景気の回復の兆しが見受けられる」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…総じて消費行動へのブレーキを不安視する声が多かった。「宅地分譲地の工事額値上げにより利益が減少しており、消費者の購買意欲は減少している。不動産購入は社会情勢に大きく影響されるので販売価格を下げるなど対応も必要と思われる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「相続や空家対策で不動産を処分したいという相談が増えている」「感染症が落ち着けば社会経済活動が活発になることが想像できる。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻の影響による世界情勢、物価高騰、冬場のエネルギー不足への懸念などで、見通しは明るいとは言えない」「未だに売れない分譲地が残っており全部売れるのか心配である」「富士川かりがね橋の完成に向けて地価の値上がりが期待できる」とのコメントが寄せられた。

『求人広告・広告デザイン』…「印刷は、全国ネットで安価で早く対応できるので、市内印刷会社への発注はほとんどなくなっている」「コロナ禍による求人需要低迷が長期化しており、新たな分野へ挑戦していかないと生き残れない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「紙媒体の需要は今後減少し、SNSの活用が増大していくので、その分野のスキルを持つことが必要である」「コロナ疲れから行動範囲拡大による、求人需要拡大が予測される」とのコメントが寄せられた。

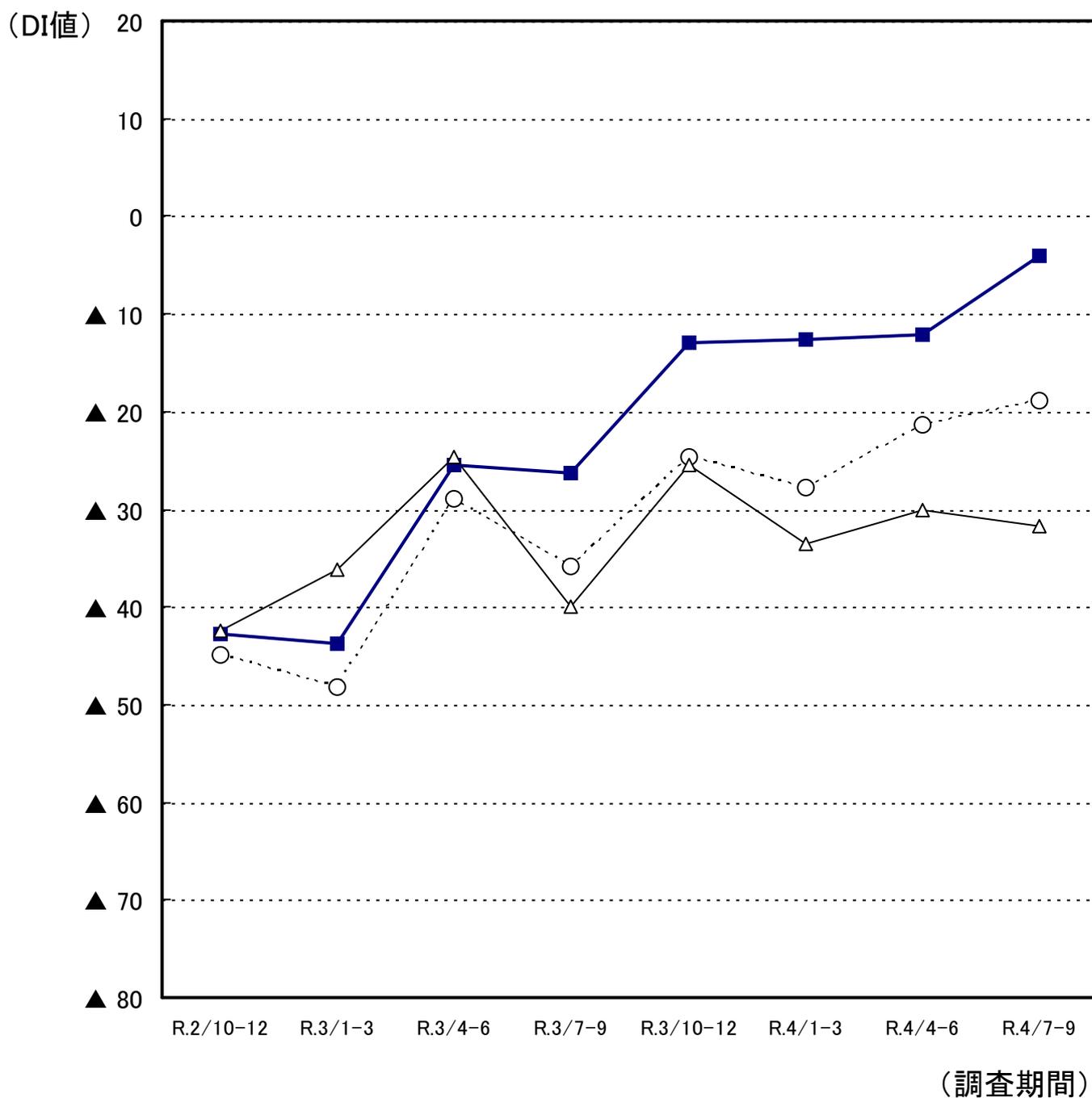
『専門サービス』…総じて労働力の確保を不安視する声が多かった。「労働力について少子高齢化が著しく労働力の低下が進んでいる。高齢者の退職数に見合う新しい若手の労働力確保が見込めない事が生産力や販売力の低下に連動している」「顧問先やその関連業者が、物価の高騰、資材不足で苦労している中、コロナ融資を受けていた事業者の倒産が増加傾向にある。税理士業界も過当競争となり、厳しい状況が予想される」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「インボイスへの対応、コロナ後の中小企業の支援などにニーズがでてきており売上を増やすチャンスはある」「職場の労働条件の改善（労働時間、賃金）等に取り組む必要が高い。国内での労働力の確保が難しい為、外国人採用の拡大が見込まれる」「今後さらに円安となり諸物価高騰の中、倒産件数が増加する。このような状況下では各経営者が将来に向けてビジョンをたて直し、方向性を検討しなければならない」「コロナに対する飲み薬の開発・認可を急いでほしい。コロナの動きがおさまらないと見通しがたてられない」「円安に係る諸経費の値上げが収益に大きな影響を与えている。その現状が国の政策とかみ合わず、中小企業に多くのマイナス要因となっている。今後、抜本的に政策が盛りこめられないと企業の生き残りが困難になっていくだろう」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「8月9月は工事関係の宿泊と8月は家族連れも多くなり、宿泊客は少しずつ上向きになってきている」「新型コロナウイルス感染者が減っていく事、政府の識別が2類から5類へ変更して、経済活動が活発になる事を期待する」「コロナで需要が少しずつ変化してきているので、それをしっかりキャッチして対応して行けば、税理士業界では顧問先企業の拡大も可能」「観光地には人が戻り始めている気配が漂ってきているが、日常生活で夜飲食店に行くというのはまだ抵抗感があり、マスクなしの生活が始まれば、一気に解放されると期待する」とのコメントも寄せられた。

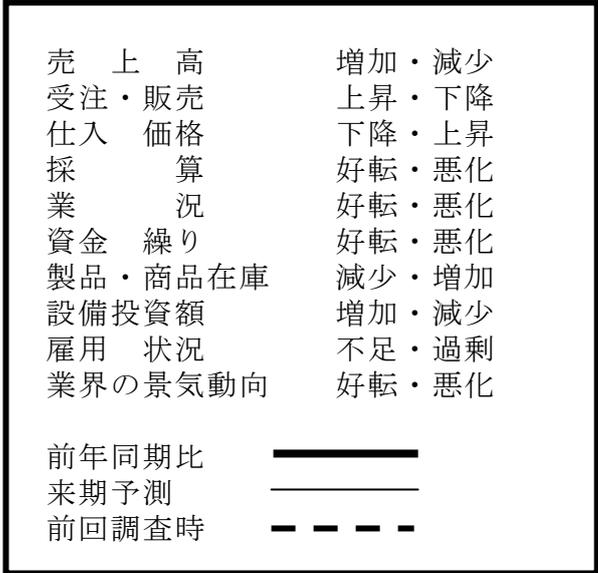
	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	7.7	53.8	38.5	▲30.8	上昇
売上高	20.0	48.0	32.0	▲12.0	上昇
採算	11.5	38.5	50.0	▲38.5	上昇

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

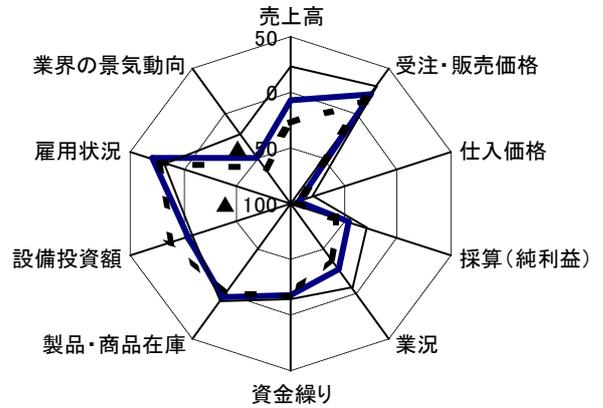
■ 売上 ○ 業況 △ 採算



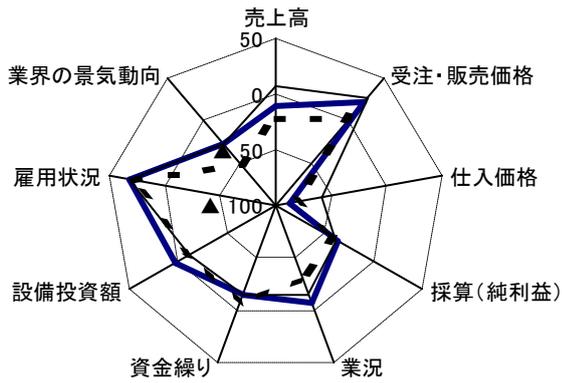
レーダーチャート



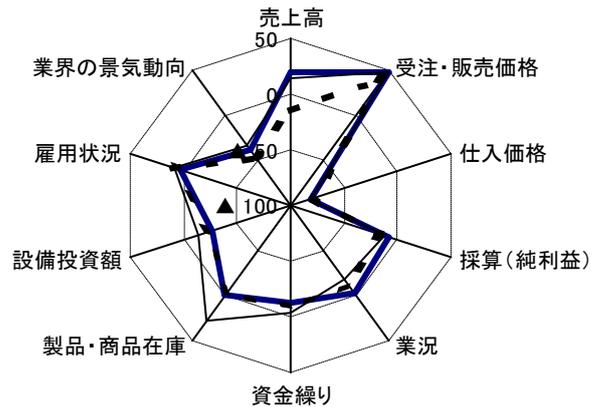
【製造業】



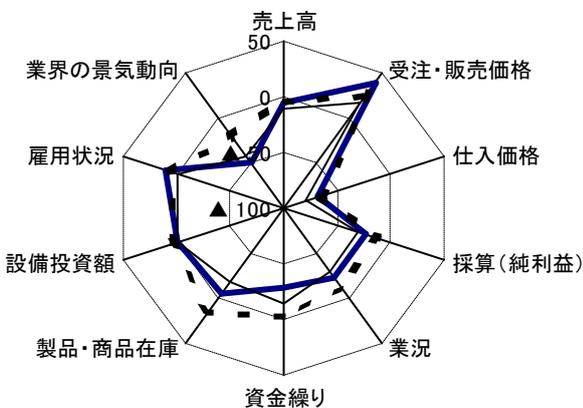
【建設業】



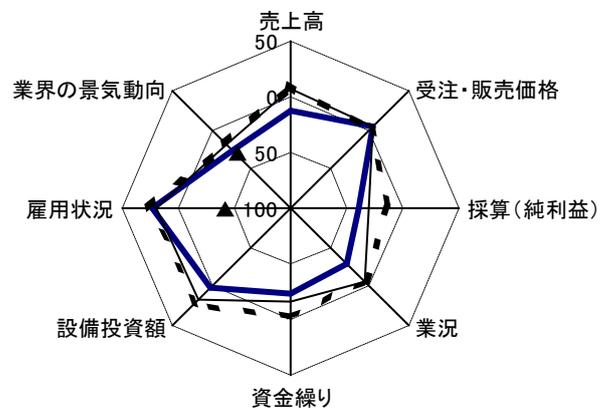
【卸売業】



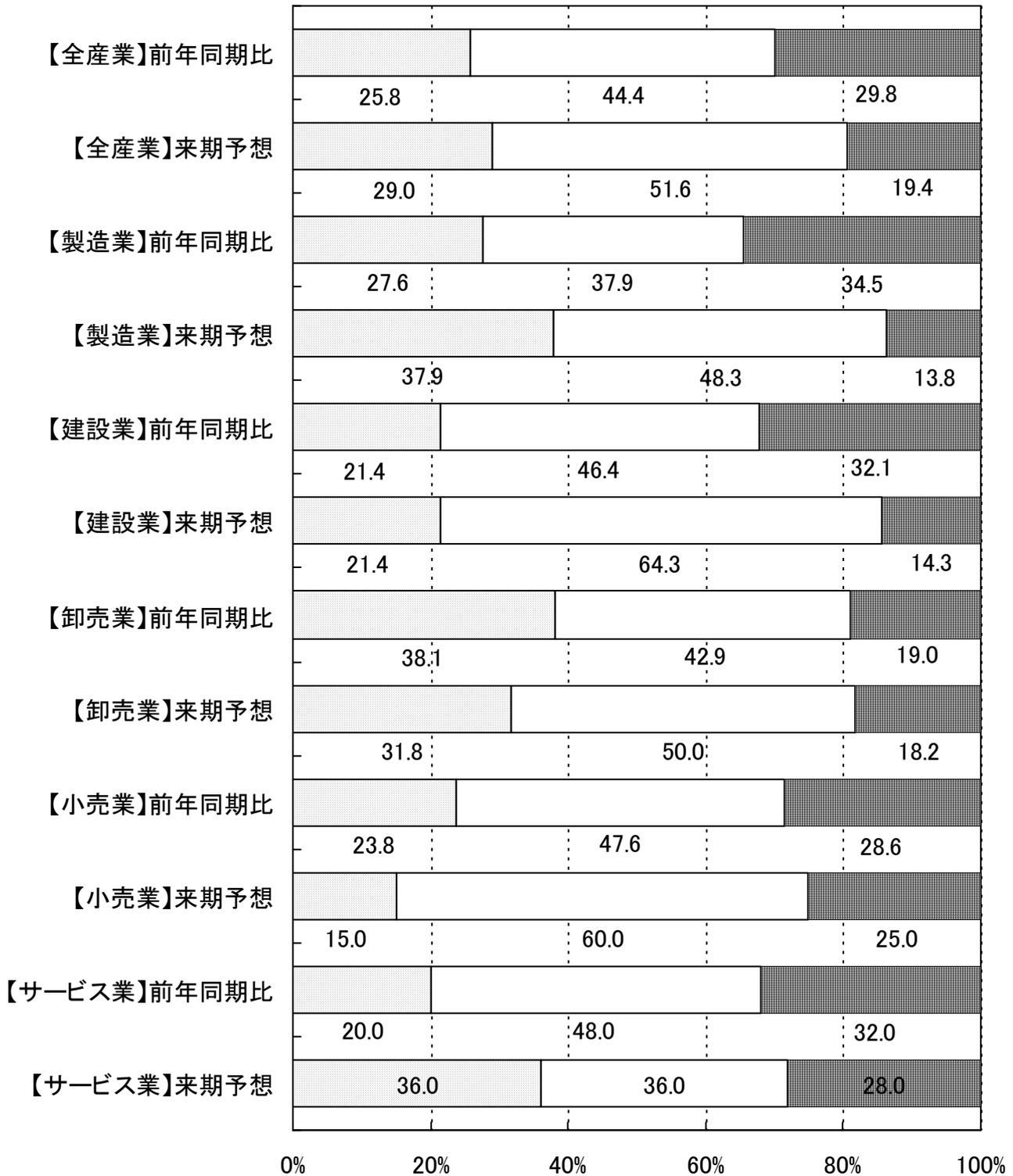
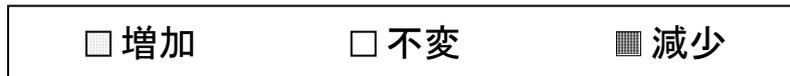
【小売業】



【サービス業】



売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 販売価格値上げ難</p> <p>3 位 設備老朽化</p> <p>その他 人材不足</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 過当競争／人員不足</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 その他の需要の低迷</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／売上減に伴う利益減</p> <p>その他 人材不足</p>
小売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減</p> <p>その他 売上、利益減による資金圧迫</p>
サービス業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 その他の需要の低迷／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 過当競争／人件費高騰／売上、利益減による資金圧迫／人材不足</p> <p>その他 設備老朽化</p>

最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2022年9月13日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（概況）県内の景気は、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響を受けつつも、基調としては持ち直している。

最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は持ち直している。個人消費は、感染者数が高水準で推移する中でも、持ち直している。住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。

こうしたもとで、企業の生産は、供給制約の影響を残しつつも、幾分持ち直している。

雇用・所得環境をみると、労働需給は改善傾向にあるほか、雇用者所得はなお弱さがあるものの、緩やかに改善しつつある。

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

(1) 個人消費(前回からの変化) → 感染者数が高水準で推移する中でも持ち直している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。乗用車新車登録台数・販売台数は、持ち直しが一服している。コンビニエンスストア売上高は、持ち直している。家電販売額は横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア売上高は、増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、緩やかに持ち直している。

(2) 公共投資(前回からの変化) → 高水準で推移している。
(公共工事請負金額前年比：22/7月▲15.4 →8月21.2%)

(3) 設備投資(前回からの変化) → 持ち直している。
(短観・設備投資額：21年度計画1.9% →22度計画25.2%)

(4) 住宅投資(前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。
(新設住宅着工戸数前年比：22/6月▲4.5% →22/7月13.5%)

(5) 輸出(前回からの変化) → 高水準で推移している。
(輸出額前年比：22/6月3.2% →22/7月6.5% <速報値>)

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 供給制約の影響を残しつつも、幾分持ち直している。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：22/5月▲11.9%→7月16.1%<速報値>)

自動車・同部品は、供給制約の影響を残しつつも、幾分持ち直している。二輪車・同部品は、持ち直している。食料品は、弱めの動きとなっているほか、電気機械は、持ち直している。化学は、幾分持ち直している。はん用・生産用・業務用機械は、緩やかに増加している。紙・パルプは、一部に弱さがあるものの、持ち直しており、楽器は、持ち直している。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 労働需給：改善傾向にある。(→)

雇用者所得：なお弱さがあるものの、緩やかに改善しつつある。(→)

(有効求人倍率 季節調整値：22/6月1.31倍→22/7月1.31倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比22/6月2.1%→7月2.6%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 総じて落ち着いている。

(22/8月、負債総額100万円以上)をみると、倒産件数(9件<前年比：12.5%>)
負債総額(20億円<同：149.1%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：22/6月末+2.0%→22/7月末+1.9%)

(3) 貸 出 前年を下回っている。(前年比：22/6月末▲0.9%→22/7月末▲0.6%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比低下している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準：22/6月1.334%→22/7月1.329%)

以 上